

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立日高高等学校中津分校	山本 直樹
学校所在地		
〒 664 - 1121 tel (0738) 54 - 0226 fax (0738) 54 - 0879 和歌山県日高郡日高川町西原357番地		
担当者名		役職名・担当教科
北又 一弘		教諭 理科 情報科 総合的な探求の時間
〔学校の概要〕		
<p>昭和24年に和歌山県立日高高等学校定時制船着分校として設立され、昭和31年に和歌山県立日高高等学校全日制中津分校と改称され現在に至る。普通科各学年1クラスで全学年50名（全学年の約4割が県外）の分校である。在校生のほとんどが硬式野球部で、全員寮生活を送り日々練習に励んでいる。教育目標は、①学習意欲を高め、学力の向上をめざす。②規律のある生活習慣を身につけ、目標を持った意欲的な高校生活を送る。③自らの進路を切り拓く力の育成をめざす。④地域との連携を深め、ふるさとを理解し特色ある学校づくりをめざす。の4点である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 3年生 16名	名 職員 2名	本校、本校周辺、熊野参詣道、本宮大社
実践研究テーマ		
地域の歴史・文化を学び、その魅力や課題の発見と、課題に取り組む力の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な探究の時間	地域学習	
〔キーワード〕		
地域の魅力 地域の遺産とは 世界の遺産とは 熊野参詣道 保全活動 地域振興		
〔単元目標〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域が持つ歴史的、文化的、自然的な魅力等に対して理解を深める。 ・世界遺産講座や現地学習を通じて、その価値を理解するとともに、その課題についての考察をする。 ・ものごとを様々な角度から捉える視点を養う。 		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 20 時間（「 地域学習 / 世界遺産の価値 」 10時間）＊1年次からの総時間数		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター … 次世代育成事業		
日高川交流センター … 日高川町の文化に対する学習		

実践に関する事項

〔单元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	地域観察（日高川町中津周辺）	自分たちの学校の周辺にはどのような自然があり、集落があるのか、また、それが人々の暮らしにどう関わっているのかに注目させる。	（学びに向かう力、知識及び技能、判断力） 観察 積極的な態度 コミュニケーション
2	世界遺産学習	ワークシートやICTを使用し、世界遺産に関する情報を調べるとともに、ユネスコが世界遺産を認定する基本的な基準や意義を学ぶ。	（学びに向かう力、知識及び技能、表現力） 観察 積極的な活動 ワークシート
3	世界遺産講座	世界遺産センターの職員により、世界遺産や「紀伊山地の霊場と参詣道」について基本的な知識を学ぶ。	（学びに向かう力、知識及び技能、思考力） 観察 ワークシート
4	現地活動	三軒茶屋跡～熊野本宮大社～大斎原「道普請」から文化や自然を継承する喜びを知り、自分たちにできることは何かを考える。	（学びに向かう力、知識及び技能、人間性、表現力、思考力、行動力） 観察 自己評価
5	ふりかえり	学習したことを振り返り、まとめる。アンケートにより、どのくらい学習が深まったのか確認する。	（学びに向かう力、思考力、表現力） 表現方法の工夫 自己評価

〔单元学習の成果と課題〕

成果 事前学習から講義や現地学習を組み合わせながら、世界遺産を柱とした地域学習に結びつけ、我々が住む地域の価値や魅力をどうやって見つけ、守っていくかを学ぶことができた。特に現地学習において歴史や文化、人々の生活等における生徒の気付きという点では感想文よりかなりの成果があったと考える。
生徒は県外出身者や地元地域外出身者が多く、また部活動一筋になりがちな学校生活の中で、将来、社会人として身につけてほしい、多様な角度からの考察力や、自身の考えを表現する力の育成に成果を出すことができた。

課題 考察力や表現力の中身の深さや精度は、まだまだ伸びしろがあり、互いに感じたことを表現し合いながら、それぞれの関わり方についてより模索していけるような、グループワークや発表の場を築いていきたい。また将来、必ず必要となるコミュニケーション能力についても醸成できればと考える。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産を通して、和歌山県の歴史や文化等を学ばせる。また和歌山県出身の生徒には和歌山県の良さを再発見させ、郷土愛の醸成を図る。他府県出身者には「和歌山県の良さを知る」という観点を目的とする。
熊野古道は巡礼の道というだけでなく、自然とそこに暮らす人々の生活との融合が、さらなる価値を生み出し、歴史を積み重ねているということ学ぶことで、人間の立場からのみならず、そこに存在する事物の立場から、ものごとを捉える視点を学ぶことにつながる。また、郷土に対して、自分自身に何ができるかについて改めて見直すことができる貴重な機会となる。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

昨年に引き続き和歌山県世界遺産センターの「次世代育成事業」に参加した。事前学習ではもう一つ生徒の興味や関心が引き出せていない面もあったが、現地学習では期待以上の刺激があったように感じられる。
生徒にとって現地での学習や体験を通して、身近な地域への関心を高め、積極的に取り組む姿勢を導き出すので、昨年度からの取り組みを踏まえ、事前学習をさらに改善、工夫しプログラムが持つ魅力と有効性が生徒の成長により活かされるようにしていきたい。

様式 2

令和4年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書

学習記録・活動写真]

～参加生徒の感想～

○道普請

先日、熊野古道での道普請に参加させて頂いて、とても良い経験になりました。ほんの少しですが力になれたのかなと思います。こういったたくさんの人の少しずつの積み重ねが、世界遺産である熊野古道をより良いものにしていくのだと感じました。また作業を行っている際、ゴミが全く落ちていないことに気が付きました。これは、観光に訪れる人々の協力や、ボランティアの方々の努力があつてのことだと思います。また本宮や鳥居を見ることができたのと同じに熊野古道や本宮の歴史にも触れることができ、とても良い経験となりました。

この経験を通して、世界遺産は自分たちで守ってゆく必要があるのだと感じました。守っていくためには、観光に訪れる人々の協力やボランティア、一人ひとりの自覚と責任が重要になってくると思います。この経験を自分の将来に生かしていこうと思います。



○現地学習 三軒茶屋跡～熊野本宮大社～大斎原

三軒茶屋跡

熊野古道中辺路 7 2 付近



展望台

祓戸王子跡



熊野古道の道普請という貴重な体験ができてとてもいい経験だった。自分の中で世界遺産に足を運んだのは初めてで、やはり世界遺産というものには特別な感覚があり、千年以上前から人が踏みしめてきた熊野古道には、すごく歴史を感じる部分があった。また熊野古道は自然が保たれてできている遺産なので人と人が協力して維持することが必要だ。

今回体験させて頂いた道普請は、最初どんなことをするのか分からない部分が多かったが、作業を進めて行く上で道普請の大切さに気づけた。また、作業を終え、観光客の方に「ありがとう」と言われた時は、自分達がしたことが色々な人のためになっていると思うとやりがいを感じた。今回、熊野古道の道普請などは人生体験の思い出として、今後色々な人に話したいと思います。本当にいい経験でした。

熊野本宮大社

大斎原

